

【事例 H27-04-03-01】香川県

思春期を対象とした自殺予防・こころの健康づくり事業

思春期を対象とした自殺予防・こころの健康づくりとして、関係機関のネットワーク構築のため、スクールソーシャルワーカー・管内高等学校・担当課などの関係者が参加する情報交換やケース検討会を行った。

【実施主体】香川県小豆総合事務所（香川県小豆保健所）

【大綱の分類】4. 心の健康づくりを進める

【事業予算】平成26年度 290千円

【利点】

思春期を対象とした自殺予防・こころの健康づくり事業を実施することで、思春期のこころの健康を保つことの大切さ、自殺予防を啓発する良い機会となる。

【実施に至るまで】

【背景・必要性・理由の概要・等】

小豆島の子供たちは、義務教育終了後、大半は島内の高校に進学するが、卒業後、多くの子供たちは島外に進学や就職していることから、子供たちが島内外の様々なギャップに戸惑い、過度なストレスにさらされている。思春期を対象とした精神保健福祉対策のニーズが高く、また、若者の自殺予防対策の必要性があることから、平成25年度から「思春期を対象とした自殺予防・こころの健康づくり事業」を実施している。

【計画を立てる上での工夫・等】

年度当初にヘルスマイトを対象にメンタルパートナーの養成講座を実施し、メンタルパートナーの役割も担ってもらうこととした。

【具体的な内容・実施の過程】

1) 講演会等事業

① 高校生を対象にした講演会

目標：自殺予防、こころの健康を保つために必要な知識を深める。

内容：「思春期のこころの健康」をテーマに、高校3年生及び教員に対して講演会を実施した。

② 高等学校文化祭への出展

目標：高校生や保護者に、不安や悩みなど様々なストレスに対処するための知識を普及し、相談先を周知する。

内容：文化祭においてメンタルヘルスに関するパネルを展示し、参加者がクイズに回答することで知識を深める機会とした。

2) 資質向上事業

① 事例検討会「不登校の中学2年生に対する支援について」

教育機関等支援者に対して、支援方法について精神科医によるコンサルテーションを行った。

② 「ひきこもり事例の危機的対応について」

ひきこもりの事例を通して地域支援のあり方を協議した。

3) ネットワーク事業「小豆島の児童・生徒の健康と教育を支える連絡会」

目標：関係機関相互が円滑な連携を図り、児童・生徒が安心して豊かに育つことができる地域社会の実現を目指す。

① 1回目

内容：情報交換及びケース検討

参加機関：スクールソーシャルワーカー（以下 SSW）、管内高等学校、町保健担当課、保健所保健・福祉担当課

② 2回目

内容：現状報告「どの子どもこの子どもみんな等しく～学びを支える地域づくり～」

意見交換

参加機関：SSW、管内高等学校、町教育委員会、町社会福祉協議会、町保健担当課、保健所保健・福祉担当課。

【成 果】

思春期を対象とした自殺予防・こころの健康づくり事業を実施することで、思春期のこころの健康を保つことの大切さ、自殺予防を啓発する機会になった。

【補 足】

高校での講演会では活発な意見や質問があり、高校生の自殺予防・こころの健康づくりに対する関心の高さを感じることができた。

【課 題】

- ・地域の支援者から、教育の手を離れると支援が繋がっていない現状の報告や、不登校からひきこもりにならないためにはどんな支援が可能かの問題提起があった。
- ・ネットワーク事業は、参加機関を拡充するとともに、ネットワークの構築に向けてさらに連携強化する必要がある。

【事業種別】 強化モデル事業

【準備期間・人数】（不明）

【予防段階】1次

【自治体規模】人口 1,005千人 財政規模 258,737,785千円（平成23年度）

【自治体負担率】0%

【事業対象】 若年者（高校生）、教育機関等支援者

【支援対象】 若年者（思春期）

【問合せ先】 香川県健康福祉部障害福祉課

TEL:087-832-3294

E-Mail: shogai-fukushi@pref.kagawa.lg.jp

【参考資料・文献】